

令和3年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第1学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせを聞いたり、簡単な話を読んだりすることが好きである。 ○「聞く・話す」力に個人差が見られる。 ○書く事柄を探せなかったり、文章で表せなかったりする児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの物語などに触れることができるよう、読み聞かせをしたり、本を活用したりする機会を多く設ける。 ○スピーチなどをする機会を設け、話したり聞いたりすることの楽しさを感じることができるようにする。 ○相手や順序を考えながら書く力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材と関連する本を紹介したり、様々なジャンルの本を読み聞かせしたりする。 ○一番伝えたいことを考え、声の大きさや速さに気を付けて話すよう指導する。聞き手は、大事なことを落とさないよう聞くようにする。 ○文例を提示し、書き言葉に慣れさせる。また、文に表しやすい題材を提示したり、話し合う中で書く事柄を決めたりできるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○算数の学習に対し、意欲的に取り組んでいる。 ○計算能力に差がある。 ○問題文を正しく読み取る力がやや弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今の意欲が保てるように、学習内容を充実させる。 ○児童の能力に合った課題を与える。 ○問題文を読むときに、分かっていることと聞いていることがきちんと理解できるように、常に問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活で生かせるような課題を設定する。 ○苦手意識のある児童には、ブロックなどの半具体物を用いた活動を取り入れる。早く終わってしまう児童には、確かめとしてブロックを使わせたり、自分で問題作りをさせたりする。 ○問題文を3つの文で考えさせ、順を追って図に表していくことで、問題文を正しく読み取れるようにする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活を支えている人々について考えることができている。 ○安全な登下校について考え、安全を守っている人々について考えることができているが、実践できていない児童もいる。 ○生き物への親しみをもち、大切にしようとする事ができている。しかし、成長の変化に気づけない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校探検を通して、関わりを深めた施設や人の位置や働きに気付かせる。 ○通学路を想起させ、ルールやマナーを守って安全に登下校することの大切さを考えさせる。 ○国語科での観察単元と連携し、伝えたいことを明確にし、気付いたことを記録できるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級指導でも、自分たちの学校生活を支えている人への感謝を伝えるよう指導する。 ○ルールやマナーを守って登下校できているか学習を振り返り指導する。 ○季節の変化や身近な自然について他教科との合科的な指導をすることで多様な表現ができるように指導する。

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみながら友達と歌ったりリズムに乗って歌ったりしているが、発声方法や表現豊かに歌うことに課題がある。 ○器楽に関しては、指導時間が少なかったこともあり、まだまだ表現を工夫することまでは難しい。 ○音遊びやリズム遊びを楽しむことができる。 ○楽しく鑑賞することができているが、曲想を感じ取ることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の歌声に気を付けて歌えるように、体を使って歌ったり、互いに歌声を聴き合ったりする活動をする。 ○楽器の基本的な奏法を指導し、身に付けさせることで、どのように演奏するか、児童が進んで表現できるようにする。 ○つくった音楽を児童同士で聴き合うことで、表現の幅を広げられるようにする。 ○音楽に合わせて体を動かす活動や、感じ取ったことや気付いたことを伝え合う活動を一層取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いに聴き合う活動の際に、「強弱」や「速さ」等の音楽を形づくっている要素に気付けるような声掛けをする。 ○鍵盤ハーモニカでは、運指を一つ一つ確認しながらの練習や、「トゥー トゥー」と言う練習をさせてから歌口を使ったタンギングの練習を積み重ねていく。 ○つくった音楽を児童同士で聴き合い様々な音や音楽に触れる機会を作る。 ○楽曲の特徴がよく表れている部分を取り出して鑑賞させる。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく創作活動に取り組んでいる児童が多い。その一方で、手順が理解できていない児童が数名いる。 ○何を作ったらよいかアイデアが浮かばず、作業をすぐに始められず、困っている児童が数名いる。 ○意欲はあるが、自分の作品についてうまく言葉で表現できない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の意図が理解できるように、めあてを明確にしたり作業の流れを提示したりする必要がある。 ○完成した作品を例示したり、十分な材料を用意したりすることで、作りたいもののイメージが膨らむようにする。 ○自分や友達の作品のよさを、言語化する活動を取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業の流れが分かるように板書したり、デジタル教科書で提示したりする。 ○創作につながるイメージが想起できるような作品例をいくつか用意する。 ○材料の準備について早めに家庭に知らせ、協力を求める。次回の学習内容を伝え、児童へ材料等の説明をし、イメージをもたせる。 ○教師が児童の作品の工夫したところなどを取り上げることにより、友達の作品のよさに気付けるように促す。 ○発表やカード、手紙に書くなど、いろいろな鑑賞方法を取り入れる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○運動能力の差が大きい。 ○バランス能力や用具(ボールや縄跳びなど)を使用した運動遊びを苦手としている児童が多い。 ○よい動きを友達に上手く伝えることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の能力に合わせた課題や場の設定をして指導にあたる。 ○苦手としている動きにつながる補助運動を実施する。 ○「よい動き」の基準を示し、児童にイメージをもたせる。さらに、友達への伝え方についても指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標回数を個々に設定したり、場をつくる際に、課題に合わせて準備する用具を変えたりする。 ○片足バランスを競争形式で行ったり、投球練習の用具を活用したりするなど、苦手とする運動を重点的に行う時間を設ける。 ○「よい動き」をしている児童が見本となる動きを行い、それを全員で見合う時間を設けたり、動きのポイントを教師が伝えたりする。